



樹 蔭 静 け

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和2年10月30日



学校祭代替行事に三条魂を見た！

校長 合浦 英則

あの感動からもう1ヶ月経とうとしています。コロナ禍の中、本当に色々なことを我慢してきた高校生活。制約がある中でもなんとか学校祭の代替行事をやりたい。やらせてあげたい。生徒、教職員、そして保護者の思いが詰まった2日間でした。1年生にとっては初めての、3年生にとっては唯一であり、最後でもある行事。生徒会を中心に様々な工夫の末に行われた行事でした。私にとっても全校生徒の前に立つのは初めてで、それだけでもう涙が出そうになりました。チームリーダーたちのお陰で少し生徒たちとの距離が近くなったような気がします。

「勉強も部活も行事も全力でやるのが三条」 そう多くの先生や

生徒たちから聞いてきました。今回それが十分伝わりました。でも、生徒たちの熱さとパワーはまだまだこんなもんじゃないですね。三条魂をこれからの学校生活や人生で発揮してくれることを望みます。

さて、今回も多くの保護者の方々のサポートをいただきました。また、何年ぶりかの花火だったのですが、地域の方々も後押ししてくださいました。本当にありがとうございました。

PTAからのアンコール花火の際、メッセージを涙まじりで読み上げた生徒の姿に私の涙腺は崩壊してしまいました。生徒一人一人の色々な思いを象徴する涙でした。まだまだ制約があります。でも、その中でも知恵と工夫でやれることはたくさんあることを示してくれた2日間でした。生徒の皆さん、お疲れ様でした。そして、ありがとう！

三条生による学校説明会

12日、午前と午後の2部に分かれて中学生向けの学校説明会を実施しました。今年は3年選択科目『自己表現』の生徒たちが、司会・運営、学校説明、校舎案内と全てを担当しました。もちろん、プレゼン内容も全て生徒自身が作成し、校長挨拶以外は全て生徒たちが仕切ってくれました。これは生徒の発信力・計画力・行動力等を伸ばすために授業の一環として行ったもので、生徒たちは真剣そのもの。時にユーモアを交えつつ、中学生にわかりやすいように、三条高校の魅力を伝えられるよう工夫していました。出席した中学生から「生き生きして全てを仕切っている三条生に憧れをもちました」という声があったと中学の先生が伝えてくれました。担当してくれた生徒の皆さん、本当にありがとうございました。



PTA生徒会対話会

23日、PTA生徒対話会が会議室で行われました。PTAからは坂本会長と廣川総務が参加し意見交流をしました。まず新生徒会長の小西莉緒さんが先日行われた学校祭代替行事でのPTAの協力に対し感謝の意を述べました。それに対し坂本会長は「PTAはみなさんの活動をサポートするのが役目です。何かできることがあったら気軽に声をかけてください。」と返しました。

また、三条高校生について廣川さんは「文武両道をしっかりやられている。学校に来る生徒のみなさんから挨拶をされるけれど、社会では本当に挨拶は大事。しっかりできる人でいてほしい。」と話していました。

他にも「コロナ禍の中で自分たちができること」や「十勝のために高校生ができること」などについて意見交流をしました。高校生の力は多分本人たちが思っている以上のもので、頑張っている姿を見せるだけでも人を元気づけているという言葉に生徒会の面々も力づけられたようでした。





第6回 生徒会部長 村松俊輔 教諭

うまくいかないときこそ成長のチャンス

◆まずは一安心

10月1・2日に行われた学校祭代替行事。学校祭が中止となり、どうするか生徒会で検討してきました。全校生徒にアンケートをとり、それを基に生徒会の生徒

たちと一緒に色々考えました。生徒のやる気と発想を大事にしながら、現実的にやれる範囲を探りながらの作業でした。あんなに天気予報が気になったことはありません。見ては変わる予報に一喜一憂していました（笑）。多くの方々のご協力のお陰でなんとか無事に実施できてほっとしました。本当に感謝しきれません。

◆教えることの喜び

私が大学で研究したのは藻類、中でもガゴメ昆布です。フコイダンという免疫力UPに効果のある成分を多く含む食品として最近注目されているのですが、ご存知ですか？昔は全く見向きもされないものだったそうです。それが道南の南茅部付近でしか生息しない。なぜか。それを探るために色々データを集めていく。そこから仮説を作り上げ、なぜの答えを探し突き詰め、「ああ、そうなのか」と思えたとき、学ぶことの面白さや喜びがでてくるものと思います。

私は受験で失敗して予備校に通ったのですが、それまでの自分の

勉強の仕方は間違っていたと痛感しました。高校生の時はとにかく問題集を解く勉強法でした。でも予備校の先生は本当にわかりやすく解説してくれるのです。なぜそうなのか、その結果どうなるのかという本質を理解させてくれる。それをしっかり自分の中に落とし込むと問題が解けるようになるんですね。だから、今でも自分のテーマは「かみくだいて、わかりやすく教える」です。自分が教育実習の時に生徒から言われた「わかった」の一言が嬉しくて教員になりました。

◆登山での失敗から学ぶ

高校、大学と山岳部でした。登る途中は苦しいけれど頂上に着いたときの充実感はたまりません。

北アルプスの屏風岩でクライミングをした時です。仲間3人で登り始めたのですが、思ったより時間が掛かり、どうするか決めなくてはならない時がありました。もう必死です。でも冷静に状況を判断し適当な場所を探してビバーク（野宿のことですが、その時は崖の途中なのでほとんど腰掛けるだけの状態）しました。夜が明けて登りきったときやっと帰れると思いました。これは本当に駄目な例で、もっときちんと計画を立てるべきだったのですが、こうしたうまくいかなかった時にこそ、人は成長できるものなのだと思うのです。何事にも準備が大事です。

ちなみに富士山はものすごい人混みです。やっぱり北海道の山がいいです。マイベストはトムラウシかな。



三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

きらり

体育祭リーダーを代表して
3年1組 下野仁悠くん

三条高校のチームリーダーたちが校長室を訪れたのは行事前日。右の写真で座っている下野仁悠くん、後列左から石川航平くん、植木利玖くん、大畑陽翔くん、細木奏汰くん、鈴木駿介くんの6名。いずれも運動部で活躍してきた面々です。何やら体育祭の宣誓で校長にやってもらいたいことがあるとか。それが“べこぼ”のギャグをもじった「校長で～す!」でした。行事当日の朝に練習、校長も交えて入念なリハーサルをして迎えた本番。受けたかどうかは皆さんの判断に任せるとして、行事を精一杯盛り上げようと頑張る姿勢は伝わったと思います。

今回の行事は縮小されて準備期間も短かったけれど、「とてもよかった」とリーダーたちは口々に言います。「生徒会が中心となって企画してくれて、例年同様、もしくはそれ以上に楽しい行事でした」と植木君。「色々な学年と関わることができて貴重な経験になりました」と鈴木君。「たくさんの方の支えがあって最後までやれました」と感謝するのは石川君。細木君と大畑君はそれぞれ「チーム長も面白いからぜひ挑戦してください」「来年は計画性をもって行動してくだ



さい」と後輩へメッセージを送ります。個人写真の撮影でちょっと遅れてきた優勝チームのリーダー下野君は「三条高校は勉強する時はしっかり勉強する、行事の時はみんなで盛り上がる、そんなメリハリが魅力です」と三条の魅力を語ってくれました。実はこれ、下野君が来る前に三条の魅力について他のリーダーみんなが口にしてきたことでした。三条生の思いは一つなのかもしれません。

最後に今日の名言。

「三条には「やらない俺ってカッコいい」という人はいない」 by 航平